

# いざ往かん！

太田東高校キャリア教育部

2020.6.26(金)発行 No. 4

## 東北地方の大学を知ろう！

～シリーズ：大学について知ろう（その2）～

今回は東北地方です。でも医歯薬系以外はわざわざ東北の私立大学に行かないと思うので（日本大工学部は福島県郡山市にあるので注意！）国公立大学中心に紹介しましょう。ランキングで常に上位に入る**東北大**を筆頭に各県に国立大学はありますが、東北大を除くと（首都圏の受験生があまり受験しないので）関東の国公立大よりも入りやすい上に、地元での評価は高く、地方中核都市にあるので暮らしやすいのでお得（アパート代は東京の約半額！）。**秋田大学**には日本で唯一「資源学」を対象とした**国際資源学部**があり、**山形大学**には群馬大学にはない**理学部**があって理科や数学の先生になれそうだし、**福島大学**の**行政政策学類**は地方公務員になるにはぴったりみたいだ。でも、東北で今一番脚光を浴びているのは秋田県にある公立の**国際教養大学**で、授業はすべて英語で行われ、全員が1年間留学するのだとか。そして来年難化必至なのが公立の**会津大学**。日本初のコンピュータ理工学専門の大学で、コロナ禍の中で人気大学の仲間入りか!? また**福島県立医科大**は従来の医・看に加え来年度から新たに**保健科学部**（検査・放射線・理学療・作業療）を設置する。実は新幹線や長距離バスを使えば東北地方は群馬からすぐに行けて意外に近い。大学4年間を東北地方で過ごすのも悪くないか…。

以下の文章は5年前（2015年）に私が岩手大学へ行ったときのことを書いたものです。オープンキャンパスも今年はWebがほとんどなので、これを読んで東北の雰囲気味わってくださいな。

IWATE UNIVERSITY

### 岩手大学に行ってきました…

岩手大学工学部の説明会に行ってきました。岩手と言えば石川啄木、そして宮沢賢治…。夏休みに入ってすぐに『銀河鉄道の夜』を久しぶりに読み返し、心はジョバンニとなった私は、銀河鉄道ならぬ東北新幹線に乗って岩手大学のある盛岡へ向かってスタートしたのでした。

**盛岡市は大宮から新幹線はやぶさで2時間弱で到着する地方中核都市の一つだ**

大宮駅で秋田行き「こまち」と青森行き「はやぶさ」が連結されている新幹線に乗車すると、次の停車駅の仙台まで1時間強、そして次の停車駅の盛岡へは2時間弱で到着です。新幹線ホームに降り立った私は、まず盛岡駅での「こまち」と「はやぶさ」の切り離しを見学。そして駅から徒歩5分の説明会が行われるホテルに荷物を預け、盛岡（岩手県の県庁所在地である盛岡市は人口30万人の地方中核都市）の市内観光に出発です。駅前から運賃100円の市内循環バス「でんでんむし」に乗り込みました

**一番有名な老舗店で盛岡三大麺のひとつ「じゃじゃ麺」を生まれて初めて食す**

今回の旅には私の密かな野望がありました。それは「じゃじゃ麺」と「冷麺」を食べ、盛岡三大麺を制覇すること（実はもう一つの「わんこそば」はかつて食べたことがあるのです）。その野望を叶える第一歩として、城址公園近くにある「白龍」（ぱいろん）というじゃじゃ麺屋の暖簾をくぐりました。昭和の臭いのするレトロで



白龍のじゃじゃ麺

狭い店舗はほぼ満席状態。なんとかカウンターに座り、じゃじゃ麺中盛り（550円）を注文。目の前で熟女Aが大量の麺をゆで、その隣で皿に盛られた麺の上に肉味噌やキュウリ・ネギなどを手際よく盛りつける熟女B。そして数分後には私の目の前にもついに登場。隣に座っていた中年親父の食べ方をずっと観察していた私は、それを真似して麺と具をぐちゃぐちゃにかき混ぜて実食！汁のないモチモチとしたうどん、食べ終わった後、カウンターに山積みされている生卵を自分で皿に割り落とし、ほぐして店員に渡します。その皿に麺のゆで汁を入れもらおうと卵スープ（+50円）の出来上がり。異文化体験を堪能し、600円を払って外に出ると店の前には行列ができていました。

**岩手大学は人文社会科学・教育・工・農の4学部だが、2016年4月に全学部を改組する**

ホテルに戻った私は、いよいよ岩手大学工学部の説明会に参加です。ところで、岩手大学は人文社会科学部・教育学部・工学部・農学部の4学部がある国立大学ですが、東北地方では東北大学に次ぐ地位。『大学ランキング2016年度（朝日新聞出版）』の「高校からの評価（総合評価：全国）」では一橋大や東工大・東京理科大などを押さえてなんと17位にランク（1位は東北大、2位が東大、群馬大は65位）されているのです！。この岩手大学では来年4月に全ての学部で改組を予定していて、工学部（5学科6コース）は理工学部（3学科8コース）に再編され、定員も全体で40名増やし「生命コース」や「数理・物理コース」を新設するほか、先端理工特別プログラム（1学年15名のエリートコース）や地域創生特別プログラムなども新たに実施するとのこと（工業はもちろん理科や数学の教員免許も理工学部で取得可能）。

この説明会に参加した高校の先生は50名程度で、北海道・岩手以外の東北各県・北関東・静岡・愛知などから来ていました。それにしても静岡や愛知から岩手大工学部を受験するのでしょうか（共同獣医学科ならまだしも…）？そこで、夕食時に愛知から来ていた先生に聞いてみました。すると「けっこういますよ」「なんで？」「だって名古屋で二次試験やってますから」「え～！」…後ほど選抜要項を確認すると、岩手大工学部は前後期とも札幌と名古屋に試験場を用意していたのです！（地方の国立大学の中には東京などに試験会場を用意していることがあります。実は群馬大学理工学部も東京に二次試験会場を設けています）。

**岩手大学のオープンキャンパスを見学し、あの野望をついに成就、そして今回のお土産は…**

翌日はホテルからバスに乗せられ岩手大学（盛岡駅から徒歩25分ぐらいの所にあるワンキャンパスの大学です）へ移動。この日は岩手大学のオープンキャンパスで、高校生であふれかえっています。午前中は教授たちに引率されながら工学部を見学。その後、今春高校を卒業して岩手大工学部に入った教え子と再会し一緒に昼食。彼は静岡大を目指すもセンター結果を見て岩手大受験に変更。話を聞くと、充実した大学生活をおくれていてこの大学でよかった、とのことでした。彼と別れた後、私は岩手大の他学部の様子を見学したのですが、東京ドーム9個分の広さを持つキャンパスを端から端まで歩くと汗が噴き出てきます。疲れ切った私は臨時バスで盛岡駅まで出たのですが、新幹線に乗車する前にしなければならないことがあります！駅前の「びよんびよん舎」に飛び込んだ私は、まだお腹がすいていないにもかかわらず冷麺（885円）を注文して実食…ついに盛岡三大麺制覇事業を完成したのでした！



岩手大の宮沢賢治像

さて今回のお土産ですが、初日に盛岡観光をした際に「もりおか啄木・賢治青春館」で購入しました。『銀河鉄道の夜』で読書感想文を書こうかなと言っていた息子に（カンパネラって女の子だよねとも言っていたお馬鹿な息子だが…）それをモチーフにした版画の絵はがき（600円）を。そしてカミさんにはオリジナルコースター（700円）を。ところが二人とも「いらない」「使わない」と冷たい反応。そして学習合宿の指導に来てくれる先生方用に購入した岩手大学オリジナルクッキー（1200円）を二人はめざとく見つけ、「こっちがいいっ！」と奪い取ったのでした。「ああ、本当の幸いって何なんだろう…」。